

ケアハウスで開かれた演奏会 温かな一体感が会場を包みます

「みなさん、こんにちは。私たちは帝京大学から来た交響楽団です。元氣いっぱい演奏しますので、楽しんで聴いてください」。ここは知的障害がある方々を支援するケアハウス、永耕園。学生たちは毎年ボランティアで演奏会を行っています。曲目はディズニーのメドレーや童謡など。運動会でお馴染みの『天国と地獄』では、歓声を上げて走り回る子供たちの姿も。リーダーである文学部心理学科2年生の泉ゆきみさんは、こう話してくれました。「普段のコンサートホールとは違い、ここではお客様との距離がほんの数メートル。より親しみのある選曲にしたり、一緒に歌ってもらえるように歌詞カードを用意したり、参加型の演奏会になるよう心掛けています。自然と手拍子が始まったり、声を出してくれたり、素直でダイレクトな反応があるから、すごくやりがいがあります。そこに生まれる会場の一体感は、とても嬉しいものです」。学生にとっても特別なこの時間を裏で支えてくれているのは、永耕園で働く穂坂直哉さん。「職員も努力しているのですが、外部と交流する機会がなかなか作れないのが実情です。そんななか、帝京大学の試みは本当にありがた

いこと。音楽って、CDやラジオで聴くのと、目の前での演奏を聴くのでは全然違いますよね。今日は音楽を聴いて、走ったり笑ったり、感情を表に出している。昨日から歓迎の飾り付けの輪っかを作ったり、来てくれた人たちと触れ合ったりと、本当にすごく楽しそうです。施設にいるみんなにも、いろんなことを経験してほしい。それは常に考えています。このようなケアハウスや、知的障害がある人たちのことを身近に感じる機会は少ないかもしれませんが、知ればきっと、人として生きるといふことや、他者とのつながりの大切さなどをより深く理解できるのではないかと思います。こんなふうに積極的に関わってくださる学生さんたちには、心から感謝しています。貴重な一日、演奏も終盤。「今日最後の曲になりました。宮崎駿監督による映画『崖の上のポニョ』のテーマ曲を演奏します。この映画には、これだけは伝えたいというメッセージがあったそうです。それは「生まれてきてよかった」そして「半径3メートル以内に大切なものが全滅である」。つまり、今の私たちにあって、みなさんが宝物なんです」。喜んでもらえているという実感が、学生たちをひとまわり大きくしてくれる。そして、音楽が前へ進む原動力になってくれるのです。



feel TEIKYO ft
あなたにつながる帝京大学 撮影・加瀬健太郎



帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします
帝京大学のあれこれを心地よい写真とともにお届けする雑誌
『feel TEIKYO』キャンパスライフ編・ジョブガイド編を配布中。
請求先→03-3964-4162(本部大学PR推進室)